

令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立鶴島小学校

1 自己評価書

教育目標	当たり前のことをちゃんとする児童の育成				
基本方針	一人一人が凡事徹底に努める				
本年度重点目標	(1)確かな学力を育てる教育の推進 (2)豊かな心を育む教育の推進 (3)健やかな体を育む教育の推進				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用 自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	A	B
			・具体的な対策の実施	B	
	②	授業改善 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	B	
	③	家庭学習の充実 家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	A	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	B	
	④	読書活動の充実 読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	C	
・児童生徒アンケート			B		
⑤	ふるさと学習及びESDの推進 社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	A	B	
		・保護者アンケート	B		
		・児童生徒アンケート	B		
<p>(成果と課題)</p> <p>○一人一台端末(iPad)のロイノートの共有機能を積極的に活用してお互いの考えに触れたり、考えをまとめたりした。</p> <p>○みきゃん通帳の電子化に完全対応した。児童の読書に対する関心が高まった。</p> <p>●学校での読書、電子書籍に触れる機会は増えているが、学校以外での読書がまだまだ定着してしない。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・教師の技量を向上させるとともに、個々に応じた課題や学習方法を検討・実施する。</p> <p>・読書の良さを児童や家庭に継続的に伝える。学校での読書の時間を確保する。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上 規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	B	
	②	児童生徒の健全育成 児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	B	
	③	基本的な生活習慣の徹底 基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート	A	B
			・児童生徒アンケート	B	
			・保護者アンケート	B	
	④	自己肯定感等 自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A	B
・児童アンケート			B		
・教師アンケート			A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○児童に寄り添った声掛けや指導を行うことで、学級や学校全体で支持的な風土が醸成されつつある。</p> <p>○教師が児童を褒めたり、認めたりする場を増やすことで、児童の自己肯定感、自己有用感は向上してきている。</p> <p>●小さな約束事を守ることができない児童がいる。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・引き続き、児童を日頃から「褒める」「認める」とこと、児童と一緒に心から笑うことを教師が率先して行う。</p> <p>・「当たり前」を「当たり前」と捉えることができるよう、その場に応じた声掛けを根気強く行う。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがい重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート	D	C
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	② 働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
・教師アンケート			B	B	
③ 他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○学校長を中心に心理的安全性の高い職場環境を充実させることができた。 ○業務改善や超過勤務等に関する研修を行った。アフターコロナの中で行事の精選等を行った。 ●教師の過重労働、疲労感は大きく、まだまだ業務改善は道半ばである。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・退庁時刻を意識して仕事に取り組むようにする。 ・引き続き研修を深め、教職員の意識改革に取り組む。 ・宇和島市や校長会で考えていただきたいこと等、積極的に具申する。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	B	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・地域アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
	③ 来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	B	
			・地域アンケート	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○明るい口調で、保護者等に寄り添って電話対応したり、来客対応ができる教職員が多い。 ○ホームページの更新頻度が多く、保護者や地域の方の閲覧する回数が多い。 ●ホームページ更新に関わる教員が増えたが、まだまだ多くの教員の協力が必要である。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・ホームページの更新に関わる教職員を増やすことで、より保護者や地域の期待に添えるホームページにする。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満